

えぬひい! Oh!

2014 春
Vol. 56



▶2P
こうちネットホップ
ホームレス支援と見守り活動

▶3P
HUG 避難所運営訓練
南海地震に備える～その先の対策～

▶4～5P
かがみおんな
鏡女のまつり
世代をつなぎ、地域をまとめる女のまつり

▶6P
香美市を盛り上げ隊
工科大学の学生による地域貢献活動

▶7P
地域を元気にするファンドレイジング
想いを託す心がつながる社会貢献のカタチ





こうちネットホップ

ホームレス支援と見守り活動

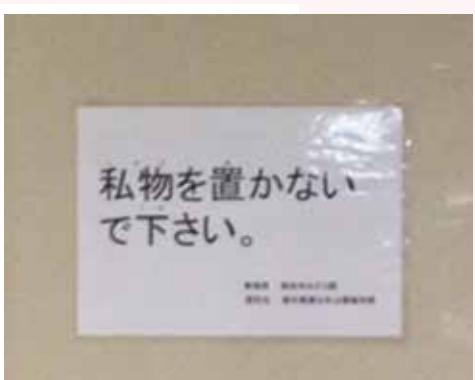
ホームレス（路上生活者）支援を行う団体「こうちネットホップ」の活動の一つである夜回り活動。行政にはできない「見守る」という立場を担うメンバーの活動に参加し、ホームレスの現状と実態を取材しました。



A red rectangular sign with white Japanese characters "禁止上" (Prohibited) and some smaller, less legible text below it, mounted on a wall.

◀▲隠すようにして防寒用の段ボールが収納してあります(はりまや橋の地下通路)

呼びかけの内容はホームレスに対して▶
(はりまや橋の地下通路)



高知県内にどれだけのホームレスが存在するか考えたことはあるでしょうか。厚生労働省の発表によると、平成24年1月時点ですで高知県には5名が確認されています。今回同行した平成25年12月時点の夜回り活動時では4名が確認でき、また、活動参加者の話によると普段確認できている方も含めると、市内だけでも確実に5名以上が存在していることになります。

彼らの生活は昼夜が逆転しており、昼間は一つの場所で睡眠や休息を取り、夜には財産を守るため、また、寒い時期には凍死しないように夜通し歩き続けます。

河川敷や地下通路、店舗内の休憩所、24時間営業の飲食店内などに身を寄せて生活する場所としています。彼らの特徴として、うつむき加減であること、洋服が汚れている・季節にそぐわない、荷物を多く抱えている、という点があげられます。ホームレスの定義として路上での生活者だけではなく、家を持たず知人などの家を転々とする人もまたホームレスの一つの形だとされています。

栄養の偏りによる糖尿病の発症、女性ホームレスの妊娠、犯罪被害の対象になつてしまふ現状などホームレスには多くの問題が付随するため、早急な対応が求められています。



◀夜回りの始めと終わりには中央公園に集まって、打ち合わせと報告を行います。

3
最後に

夜回りの中でホームレスの人と和やかに話す「こうちネットホップ」のメンバーハイの後姿に、「心に寄り添い、声をかけ続けることで信頼関係の構築を行わなければ、相談相手としての立場を得ることはできない。根気強くコミュニケーションをとる努力があつてこそその活動だ」と考えさせられました。彼らがいる風景を、日常の中の一つだととらえてしまふ私たちの感覚にも危機感を覚えるべきではないでしようか。

「路上生活のままでいいと考えている人も少なからず存在する。本人の意志をなによりも尊重し、現状維持を望むなら見守り、抜け出したい方には全力でサポートをする」とネットホップ代表の田中きよむさんは語ってくれました。

団体名の「こうちネットホップ」には支援活動の「ネットワークづくり」と自立へのホップ・ステップ・ジャンプという2つの意味が込められています。団体の取組みは主として生活困難に直面し、その生活を立て直したいと考えている人に対し相談や支援活動を行い、また貧困問題解決のために学習会や講演会を開催しています。活動には医療関係者だけでなく、学生や教員行政関係者など様々な分野の方が参加していることで、多様な解決法を提案できる強みがあります。

1

ホームレスの実態

河川敷や地下通路、店舗内の休憩所、
寺間営業の飲食店内などに身を寄せて生活

2

こうちネットホップの取組み



HUG避難所運営訓練

南海地震に備える～その先の対策～

この事業は、高知県南海地震対策課主催で、NPO高知市民会議が受託し、昨年10月6日に県庁正庁ホールで開催された県中央部対象の研修に引き続いだ。参加者は、それぞれ55名と30名であった。

現在、南海地震対策は、建物の耐震対策や震災直後に起ると想定される津波からの一時避難対策に主眼が置かれている。また、その後は、助けが来るまでの3日から1週間程度の自主的な避難生活が必要とされており、これらに対応する食料備蓄も呼び掛けられている。生命を守る一時避難や自主的な避難生生活を経て、避難者の多くは、近くの学校などで避難所生活を送ることになるが、その期間は、短くて1ヶ月から3ヶ月、長い場合は半年から1年にもなると考えられている。

こうした避難所の運営は行政だけでは到底困難で、東日本大震災でも、地域コミュニティが運営する避難所が多く見られた。今後の南海地震対策を考えるにあたり、この事業は、いざという時の心構えを持てるよう、シミュレーションにより地域住民が中心になって非常時の生活課題を自ら考えるという感覚を養う取り組みである。

平成26年1月11日（土）と1月12日（日）の両日、四万十市立文化センター（11日）と安芸市消防・防災センター（12日）を会場に、HUG（ハグ）避難所運営訓練が開催された。

この事業は、高知県南海地震対策課主催で、NPO高知市民会議が受託し、昨年10月6日に県庁正庁ホールで開催された県中央部対象の研修に引き続いだ。参加者は、それぞれ55名と30名であつた。

1

事前準備から避難後対策へ

現在、南海地震対策は、事前

の防災や減災の取り組みだけでなく、自主避難→緊急避難生活→避難所生

活→復興を見据えて段階

に応じた準備を行うこと

が重要である。

被災した地域住民が集

団でひとつ屋根の下で長

期に暮らす避難所生活に

は、相互に理解し合い、

課題解決に向けた方策を

検討することが必須であ

り、この訓練は、私たち

ができる事前の重要な取

り組みの一つだと感じた。

この取り組みが、更に

多くの地域で行われ、意

識向上に繋がることを希

求する。

（森岡）

2

参加者の声

今回の訓練には、地震対策への関心の強さを示すように、各地の自主防災会のメンバーや自治体職員、社会福祉施設の管理者等が参加した。

訓練では、NPO高知市民会議の山崎水紀夫理事が、東日本大震災の被災地、岩手県大槌町の事例を提示しながら「避難所運営は命の大問題」と題して講演し、続いてグループに分かれて避難所訓練のシミュレーションが行われた。

また安芸市の参加者からは、「矢継ぎ早に課題に対処しなければならず大変だった他の地域の方々にも参加してもらいたい」という声が上がっていた。会場の消防・防災センターでは、防災グッズを展示しているコーナーもあり、参加者は熱心に見ていた。

一方で、東日本大震災の被災地、岩手県大槌町の事例を提示しながら「避難所運営は命の大問題」と題して講演し、続いてグループに分かれて避難所訓練のシミュレーションが行われた。

また安芸市の参加者からは、「矢継ぎ早に課題に対処しなければならず大変だった他の地域の方々にも参加してもらいたい」という声が上がっていた。会場の消防・防災センターでは、防災グッズを展示しているコーナーもあり、参加者は熱心に見ていた。

3

最後に



HUGは、避難所運営を考えるひとつ

のアプローチとして静岡県が開発したもので、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれの事情が書かれたカードを、避難所での活動に適切に配置できるか、また避難所でおこる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。

参加者は、このゲームにより災害時要援護者への配慮をしながら部屋割りを考えたり、炊き出し場や仮設トイレの配置などの生活空間の確保、視察や取材対応といった出来事に対して、思いのままに意見を出し合ったり、話し合ったりしながらゲーム感覚で避難所の運営を学ぶ事ができる。

HUGは、H(hinanzyo)、U(unei)、G(game)の頭文字を取ったもので、「抱きしめる」という意味を含んでいる。

【静岡県ホームページより引用】



かがみおんな

高知市鏡の山里に、凛とした女の強さが
キラリと光る粋なまつりあり
その名をぞ「女のまつり」という。



平成26年2月1日、高知市中山間地域構造改善センターにて、「輝く！おんなたち」と題して、女のまつりが開催されました。毎年、建国記念日に行われるこの祭り、なんと今年で24回目を迎えるとのこと。

祭りを企画・運営するのは、地域の女性達、すなわち高知市鏡地域婦人会を母体とする鏡女のまつり実行委員会のみなさん。男性陣は、祭りの祝賀会に供される皿鉢料理づくりなどの台所仕事を行うなど、あくまで裏方に徹するのだそうです。

会場では、幼稚園児の創作絵本から小中学生の書道や絵画、奥様方の生け花や絵手紙、まるで藤細工と見まちがうような紙巻ワイヤー細工の小物の作品がずらりと出迎えます。製作者一人ひとりの顔が見えるよう

高 知市内から車を北に走らせることが20分弱。車から一步外に出た途端、山から吹き荒ぶ2月の冷たい風が、容赦なく体を痛めつける。ここは、清流鏡川の流れる山里、高知市鏡。「鏡女のまつり」、女のまつりが行われるというのだ。

鏡吉原在住の映像作家マイケル・カーン氏の映画「益のほうかい」はじめり、高知市鏡地域婦人会会員によるコーラス、フラダンス、舞踊、カラオケ、詩吟、鏡小学生によるダ

○地域みんなの発表会
鏡小学校の3、4年生は、総合学習の時間に地域の方からこの大利太刀踊りを伝授してもらつており、今回の発表となりました。



男女共同参画について語る
鏡女のまつり実行委員長 高橋清子さん

ンスなど、数にして17のアトラクションが続ります。開会のあいさつや司会も、ピシッとスーツを着こなした女性陣が執り行います。後ほど、実行委員長にお話しを伺うことになります。

○鏡中学校2年生による意見発表「命の重み」「勉強について」
ステージの開幕です。

○鏡女のまつり実行委員会委員長 高橋清子氏に聞く

今時の中学生がどんなことを悩み、考えているのか、耳を傾けたことはありますか？地域に住まう老いも若きもお偉いさんも、次代を担う中学の意見にじっと耳を傾けます。

○鏡小学校4年生による大利太刀踊り
大利の太刀踊りの起源は不明ではあるものの、約700年前、平家の落人達が昔の榮華を偲び、源平和平への祈りを込めて踊ったのがはじまりと伝えられているそうで、踊り子が紅白に分かれて二人一組となり、真剣を持って踊るため（このステージでは模刀）、怪我をすることがあるのだと。非常に勇壮かつスリリングな踊りです。毎年11月に地元新宮神社の秋祭りに奉納されます。

伝統的に、女子は太刀を持つことさえ許されなかつたのですが、継承者の減少や学校の取り組みにより、女子も太刀を携え神社の本殿で踊るようになりました。

鏡小学校の3、4年生は、総合学習の時間に地域の方からこの大利太刀踊りを伝授してもらつており、今回の発表となりました。

まつりを運営されている実行委員のみなさん、それぞれに笑顔が素敵で、一人ひとりが生き生きと誇りを持っています。世代を超えた地域の皆さんが発表できる場を創ることで、世代がつながり、地域がつながり、付き合いが深くなり、豊かな人間関係を築くことができるのでしょうか。中心に、凛と輝く女性達の存在があります。

えぬひい
Oh!

鏡女のまつり



写真：鏡公民館提供



香美市を盛り上げ隊

工科大学の学生による地域貢献活動

近年、大学は地域と密着した様々な活動を進めていくが、香美市でも高知工科大学が地域貢献活動を行っている。高知工科大学の「香美市を盛り上げ隊」のメンバーである情報学群2回生の山崎禎弥さん、自分たちの活動についての想いを寄稿いただいた。

【寄稿】

高知工科大学

情報学群2回生 山崎 禎弥

よしひる

現在、どの大学でも地域貢献活動は行われており、高知工科大学でも地域の様々な場面で学生が活動にかかわっている。本学が盛んに地域活性化に取り組んでいる理由は、基本理念のひとつに「地域社会との連携と貢献」があるからだ。この理念を大切にしながら、学生たちは、地域に関わろうと努力しているが、ここでは、一例として私の関わっている活動について紹介する。

■香美市を盛り上げたい

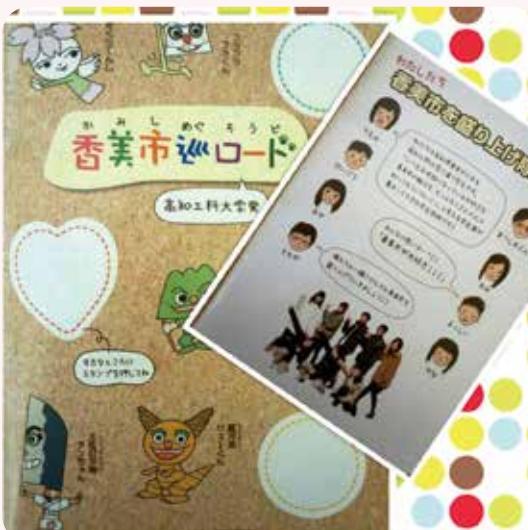
香美市に来た観光客は、アンパンマンミュージアムなどのメジヤースポットにしか行かない。道中にも店舗は多くあるのに通過してしまう観光客が多い。私が副代表を務めている「香美市を盛り上げ隊」（通称かみもり）のスタンプラリー企画「香美市巡めぐロード」は、この観光客に、本来の目的地に行くまでに別のお店や他の観光スポット等に立ち寄つてもらい、香美市の魅力を新発見・再確認してもらう「周遊」を促す活動を行っている。

具体的には、香美市内の魅力あるお店を紹介したスタンプラリー型のパンフレットを作成し、観光客はこれを元に記載されているお店を巡りながら、スタンプを集められた方に景品をお渡しするという活動だ。

地域貢献活動は継続が重要であるため、長期間地域に携われる活動をしたいと、この活動を企画した。地域の方々からは、「学生との交流する機会が格段に増え、若い人たちと一緒に



▲香美市巡ロードの協力店ふらっと中町で開催した七夕祭りでの手伝いの様子



▲香美市巡ロードのパンフレット

緒に活動ができた」という嬉しい声を頂いている。こういう声を地域の方々からもっと聞かせてもらえるように、そして、香美市を訪れる観光客にこのまちの魅力をもつと味わってもらい、「また香美市に来たい」と思ってもらえるように、この活動を続けて行きたい。

私たちは、この活動を続けることで、地域の方々と学生が交流する機会を増やし、お互いが打ち解けられる事で、声をかけやすくなる関係性が築け、これから先の新たな取り組みにも生かすことができると考えている。



▲物部川子ども祭の手伝い（宝探しゲーム）の様子

■最後に

机の上だけでは学べない地域に飛び出す体験から学ぶこの活動が、地域の力になり、さらに自分たちが今後社会人として羽ばたく力になると、私たち学生は信じている。

そして、地域活性化の主役は何と言っても地域の方々である。地域と学生が、バランス感覚を大切にしながら、ともに手を携え、より良い活動ができるようになります。これからも一層精進して行きたい。

えぬひい！Oh!



▲第二部：想いを伝えるコツを探るワークショップ風景
[西部会場：黒潮町入野地区ネスト・ウエストガーデン土佐]

■ 一つは、「感動の共有」で「共感の環」をつくることが大切。感動には驚きが潜み、この驚きのニュースが感動となり、共感というファクターをとおり、シンク口にする。感動を共有し、物語で共感の場を広げ、現状を解決するためだけにお金を使う団体は伸びないし、未来も見えてこない。伸びる団体は、資金を未来に投資することが大切だということ。

■ 一つは、「未来に投資」

困っているからお金をください！」ではなく、「困っているからお金をください！」ではなく、今を真摯に伝え、共感してもらうことが大切。加えて、解決策を提案することで社会を変えたいというメッセージを送る。そして、共感×解決策の相乗効果で寄付や協賛金というカタチにかかるのだ。

■ 「言葉」

言葉から生まれる共感がある。目の不自由な男性が路上に座り込み、「お金をください」と段ボールに書いたメッセージで援助。そこへ、一人の少女が通りかかり、「みなさんへ！今日は天気がよいそうですね。でもわたしは見ることができません」と書き換える。今日の晴天を楽しんでいる通行人の多くが「あ、この人はこの爽快な青空が見えないんだ。この天気を楽しめないんだ」と心を留めるようになる。そして多くの通行人がコインを箱に入れていく。

「夢」は最大の経営資源。

(しのみや)

地域を元氣にするファンドレイジング 思いを託す心がつながる社会貢献のカタチ

3年目を迎える「ファンドレイジング・ジャパン in こうち」

「ファンドレイジング・ジャパン in こうち（以下、FRJin こうち）」、今年で3年目。 「ファンドレイジング」、フリー百科事典ウィキペディアから引用すると「民間非営利団体が、活動のための資金を個人、法人、政府などから集める行為」ということだ。さらに、「FRJin こうち」を主催する「ファンドレイジング・ジャパン in こうち実行委員会」の言葉を借りると「自分たちの夢や志を明確にし、取り組みを楽しむとともに、応援してくれるファンを増やすために、必要な資金の調達につなげていく」である。

1 熱気に包まれる西部会場＆東部会場

さてと、3年目を迎えた「FRJin こうち」。今3ヵ所での開催だ。ここでは、西部会場、東部会場の2ヵ所に出かけてみた。プログラムは両会場どちらも同じ。日本のファンドレイジング界のトップを直走る、鵜尾雅隆氏（日本ファンドレイジング協会代表理事）の基調講演（題目…なぜ今、ファンドレイジング？）とワークショップ（題目…想いを伝えれるコツを探る）の2部構成だ。

2

第一部「共感×解決策」、「未来への投資」、「感動の共有」、そして「共感の環」

本題である。しなやかに鵜尾氏の名調子で講演がはじまる。少なからず緊張感が漂う中、落語の導入部に使われる「つかみ」から入る。ググッと客の心を一気にたぐり寄せ、集中力を高めつつも心地よい緊張感に変えていく。さすがだ。会場全員が鵜尾ワールドに招待された瞬間である。少しづつ、そして着実に熱気をはらみながら、鵜尾氏のどの言葉もやさしく、かつ、どれも捨てることのできないメッセージを介する。

3

第二部、想いを伝える「コツを探る」ワークシヨツプ

ここでは、鵜尾氏からのテーマを題材としたワークシヨツプに載ったとする。さて、どのような記事なり想像してみよう、「今日の参加者の中にどうしても雇う？」というテーマが出され、参加者たちは自己表現していく。ここからみえてくるものは、「物語」、「共感」、「想いを伝える投資」、「夢」を「感動」で伝えることであった。

4

最後に、心に響く鵜尾氏の名言集を！



鵜尾雅隆氏基調講演風景 [東部会場：香南市赤岡地区弁天座] ▲▶

高知弁クイズ

高知に住んでいながらも私たちがわからない高知弁はたくさんあります
みなさんはわかりますか？

問1



みよーに○○○て
たまらん。
水はないかよ

(訳) のどが乾いて

- (1) カークルシュー
- (2) ハッキキチュー
- (3) ボーシミクサー

問2



パジャマが○○○

(訳) 脱ぎっぱなしに
なっている

- (1) バラケタオシテール
- (2) ツクスネチャール
- (3) ツクネデビール

問3



あんまりきれーな
娘さんになっちゃったき、
○○○になって見よった

(訳) あっけにとられる

- (1) アッポロケ
- (2) アギジャビヨー
- (3) シットルケ

問4



とうとう
パソコンが○○○

(訳) 壊れた

- (1) メッタボッタ
- (2) バケラッタ
- (3) チャガマッタ

答えは高知市市民活動サポートセンターのホームページに掲載中。

URL : <http://www.kochi-saposen.net/>

参考書籍：高知県方言辞典（高知市文化振興事業団発行）

クイズ制作：NPO 高知市民会議広報部会

つぶやき

#編集スタッフの



@たまき



お弁当が好きだ。車内や機内で食べる旅弁はもとより、職場で食べる自作弁当も好きだ。昔は冷や飯が嫌いだったのに、いつからか、冷めたご飯にこそ深い滋味を感じるようになった。これは舌の成熟か、はたまた枯れか。明日は塩サバ弁当です。

@のむ



ソチにエールを送りつつオリンピックの感動を同時に見たくて、睡眠不足の私。ベテランから新人まで、表舞台に立つ人支える人。メダリストもそうでない人も。みんなみんな参加できることが素晴らしい。

@岩貞



この冬は、寒さ対策にかなりの気合いを入れました。中でも自信の傑作は、犬用こたつ！人間用の省スペースこたつを愛犬専用に仕上げました。我が家ではワンちゃんが一番ぬくぬくの中で過ごしています。

発行

高知市市民活動サポートセンター

企画編集

認定特定非営利活動法人
NPO高知市民会議 広報部会

〒780-0862 高知市鷹匠町2丁目1-43 高知市たかじょう庁舎2階

月～金／10:00～21:00 土／10:00～18:00(日・祝日は休み)

TEL : 088-820-1540 FAX : 088-820-1665

E-Mail : npokochi@siminkaigi.com

WEB : <http://www.kochi-saposen.net/>

この冊子は再生紙を使用しています

@おおの



暖かくなると出かけたくてウズウズします。外に出ると今度は鼻がムズムズしあげます。くしゃみが連續で出始めるとクタクタになります (+o+) 春は楽しみなお出かけがいっぱいで悩ましい今日この頃です。

@横田



挿絵作家・黒井健の展覧会にて。教科書でおなじみ新見南吉「ごんぎつね」「手ぶくろを買いに」の挿絵は、切なくてはかなく、そして暖かい愛情に溢れていて思わず涙…。子供の頃なんなく読んでいた作品にはっとさせられたひとときだった。